

「大横川の干満(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

東西線・大江戸線の門前仲町駅で降りて、清澄通りを月島方面に少し歩くと、「黒船橋」という橋を渡る。下を流れるのは「大横川」である。「川」の名があるが、実際はほとんど海と直接つながっているので、潮汐の影響を直接受ける。



潮の干満は、月の潮汐力が生み出す現象である。毎日同じ時刻に、同じように干満が起きれば簡単なのだが、そうはいかない。月の満ち欠けによって、目まぐるしく変化するのだ。下のグラフは、2016年5月の東京港の潮汐グラフである。新月・満月とその前後は、満潮と干潮の潮位差が大きく、半月(上弦・下弦)とその前後には、潮位差が小さいことがわかる。

満月・新月前後の潮汐を「大潮」、半月前後の潮汐を「小潮」と呼ぶ。しかし、それ以外の日でも、一日に2回、「満潮」と「干潮」を繰り返す。(日付をまたぐ場合、1回しかない場合もある)



私はほぼ毎朝・毎晩、通勤中に大横川を眺めているが、常に水位が変化していることを実感できる。上の写真は、満潮の時間帯の大横川である。ちょうど桜が満開だったが、桜の枝に、水面がぎりぎりまで迫っている。この時期、和舟の観桜舟が出るのだが、大潮前後の満潮の時間帯は、舟が橋の下をくぐれないので、運行が中止になる。これが干潮になると、更に面白い現象が見られる。(つづく)

